

【小諸市】校務DX計画

2025年3月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項	
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	25%	50%	75%	100%	・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一扫については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。	
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%		
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	50%	75%	100%	100%	100%		
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	一部(半分未満) 25% 一部(半分以上) 37.5% 完全にデジタル化 37.5%	一部(半分以上) 50% 完全にデジタル化 50%	一部(半分以上) 25% 完全にデジタル化 75%		100%	100%	・自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 ・選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	時々持ち帰って、時々使用 100%	時々持ち帰って、時々使用 50% 毎日持ち帰って、時々使用 50%	毎日持ち帰って、時々使用 75% 毎日持ち帰って、毎日使用 25%	毎日持ち帰って、時々使用 50% 毎日持ち帰って、毎日使用 50%		100%	
	16.職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の割合	一部(半分以上) 37.5% 完全にデジタル化 62.5%	一部(半分以上) 25% 完全にデジタル化 75%	一部(半分以上) 12.5% 完全にデジタル化 87.5%		100%	100%	
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙に押印して提出するという規則、慣例が残っており、押印の省略や電子データでの提出を認めていない場合がある。 ・各種文書の提出に当たって、紙と電子データの両方を求めている場合があり、二重の業務負担となっている。 ・紙は形に残るため、通勤手当等の各種手当に関する書類、扶養控除等の年末調整に関する書類はデータ化が困難。 						
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・前例踏襲を避け、紙を使用すること、押印することの必要性を再検討する。 ・PC、モバイル端末を使用することで、印刷コストや印刷・配布する時間を削減をすることができる。 ・教育委員会は教職員のICTスキルを向上させるために、各種研修会を積極的に行う。 						
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・現在導入している統合型校務支援システムについて使用している現場の教職員の意見を踏まえ、導入した業者に随時改修を求める。 ・校務系ネットワークについてネットワークに接続する校務用PCの更新時期を迎えていることから「シンクライアントシステム」の導入を検討する。 						

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の14ページを参考に作成。